

議員説明会 会議録

1 開催日時

令和6年1月31日（水曜日） 午前10時 ～ 午前10時28分

2 件名

コミュニティバス土沢線の運行について

3 議事録

（岩間総合政策部長）

ただいまから、議員説明会を開催いたします。

本日の案件コミュニティバス土沢線の運行につきまして、建設部から説明をさせていただきます。

佐々木 都市政策・都市機能整備担当部長。

（佐々木 都市政策・都市機能整備担当部長）

都市政策・都市機能整備担当部 佐々木 です。どうぞ宜しくお願い致します。

本日の説明資料は、A4縦で左上をホチキス止めしている『コミュニティバス「土沢線」の運行について』と記載された資料の1種類です。皆様のお手元にございますでしょうか？
それでは、『コミュニティバス「土沢線」について』をご説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

初めに「経緯」について、ご説明いたします。一部は昨年6月22日に開催された議員説明会で説明したところもあり、重複するところもございますのご了承願います。

先ず、昨年4月18日に、岩手県交通株式会社から、これまで高速バスや貸切バスの収益により、バス路線の維持を図ってきましたものの、高速バスの利用者が回復せず経営状況が厳しいこと、また、令和6年4月からは「働き方改革」のため、運転士の処遇改善やそれに伴う経費の増加で路線維持が難しくなっていることを理由に、土沢線について令和5年9月30日をもって廃線としたいとの通知があったところです。

その後、岩手県交通に対し、補助金等による路線維持を再検討してもらおうよう打診したところ、令和4年10月から令和6年3月までの赤字額（上限18,991千円）の補てんを条件として、令和6年3月までは継続して運行することが可能であるが、令和6年4月以降については、赤字補てんがあっても運行できないとの回答があったところございます。

令和5年6月13日には、岩手県交通のバス路線の廃線・減便が続いている状況でありますことから、バス路線を維持していくためには、岩手県を中心として、関係市町村が岩手県交通に対して、単なる赤字路線の補てんだけでなく、それ以上の必要な支援をしていくことが必要と考えまして、本市と同様のタイミングで廃線の申し出がありました、県南地域の一関市、奥州市、北上市、金ケ崎町の4市1町の首長で、岩手県知事に対し要望

を行ったところであります。

次に、令和5年6月議会におきましては、令和6年3月まで運行するための補助金（赤字補てん分 上限18,991千円）の補正予算を、令和5年9月議会においては、スクールバスとして利用していた旧町営バスを代替交通車両とするための改修費（8,483千円）及び来年3月に納車予定の新車両購入費（26,549千円）の補正予算をご承認いただいたところでもあります。

次に、令和5年12月には、矢沢地域と東和地域で代替交通の内容について地域説明会を開催し、計67名の方にご出席いただいたところであり、12月26日には、地域説明会と同様の内容を、花巻市地域公共交通会議で説明したところでもあります。

次に資料の2ページ目をご覧ください。「土沢線の概要」についてご説明いたします。

土沢線は、東和地域の雲南桜前バス停留所と、新花巻駅や宮沢賢治記念館などの観光施設を經由し、花巻駅を結ぶ路線であり、計画期間を平成29年度から令和5年度までとする花巻市地域公共交通網形成計画では、幹線路線として位置付け、計画期間内は路線を維持することとしており、また、現在策定作業中の計画期間を令和6年度から令和10年度とする「花巻市地域公共交通計画」においても、土沢線をコミュニティバス化し、路線を維持することとして計画素案を作成しているところでもあります。

便数につきましては、現在平日17便、土日8便となっております。

次に、利用実績・補助金額につきましては、土沢線は、国庫補助対象路線となっておりまして、運行経費の一部について、国及び県から岩手県交通に対し補助金が交付されている状況であります。土沢線の利用状況・補助金額につきましては、お手元の資料の表をご覧くださいますと、輸送人員につきましては令和元年度の51,010人の以降、コロナ禍ということもあり令和2年度、3年度では利用者が大幅に減少し、令和4年度では41,345人と回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準には回復していない状況にあります。

さらに、欠損額をご覧くださいますと、コロナ禍により利用者が減少した令和2年度、令和3年度では赤字額が15,000千円を超えておりますが、国の補助制度におきまして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い補助要件を緩和する特例措置が講じられたことから、補助金額が増額となり、補助金と欠損額の差につきましては令和元年度以降、減少している状況にあります。

次に、乗降調査結果についてご説明いたします。お手元の資料は、昨年11月27日から12月1日の7日間、岩手県交通株式会社で実施したバス停留所ごとの利用人数をグラフ化したものでありまして、上段は平日5日間の合計、下段は土日2日間の合計となっております。

平日につきましては、新花巻駅、賢治記念館口、上町、花巻駅、イトーヨーカドーの利用者が多く、蒼前林や安野等の矢沢地域の利用もある程度あり、地域の生活の足として利用されているほか、観光客の移動手段としても利用されている状況であると捉えております。その一方で、東和地域から新花巻駅までの区間につきましては、利用客がゼロの停留所もあるところがございます。

土日につきましては、新花巻駅、賢治記念館口、花巻駅前が多く、観光客の利用が主であるとと考えております。

資料の3ページ目をご覧ください。「地域説明会での意見について」ご説明いたします。

冒頭の経緯でも説明しましたが、12月16日、19日、22日に、矢沢地域と東和地域で計4回の説明会を開催し、4日間で計67名の参加があったところがございます。

説明会では、土沢線の廃線の経緯と、代替運行となるコミュニティバス「土沢線」の運行案について説明したところであり、主な意見といたしましては、具体的なダイヤやルートの変更、現在のルートの継続、上屋の設置の要望があったところではありますが、参加者に対するアンケート結果では、運賃やダイヤ設定、バス停の位置については、市が説明いたしました運行内容案に概ねご理解いただいたと認識しているところでもあります。

次に資料の4ページ目をご覧ください。「コミュニティバス「土沢線」の運行内容」についてご説明いたします。

運行事業者は株式会社東和町総合サービス公社、運行開始日は令和6年4月1日月曜日を予定しております。

運行ルートにつきましては、現在のルートを基本としておりますが、東和地域におきましては、利便性を考慮し、東和コミュニティセンターや県立東和病院、道の駅とうわを経由することとし、バス待機所につきましても、現在、バス停留所の雲南桜前の近くにある、旧岩手県交通東和営業所の敷地を利用しておりますが、運行事業者である東和町総合サービス公社と相談した結果、東和温泉を待機場所とすることが可能とのことでありましたことから、具体的には、「雲南桜前」、「八日市場」、「土沢駅口」のバス停留所を廃止し、新たに「道の駅とうわ」、「東和病院」、「東和コミセン」、「新斎通り」、「土沢駅前」の5か所のバス停留所を新設し、ルートをこれらに合わせて変更するものであります。

運行車両につきましては、先ほど経緯で説明したとおり、当面、スクールバスで使用していた定員58名の旧町営バスを修繕し使用しますが、その車両1台では、花巻地域及び東和地域両方からの通勤通学時の便を確保することが不可能でありますことから、通勤通学時の便を確保するために、朝の「道の駅とうわ」始発便と、夕方の「イトーヨーカドー」終発便については、定員11名の岩手医科大学附属病院利用者連絡バス車両を使用することとしたものであります。

なお、来年3月頃には現在購入手続き中であり、市街地循環バス車両と同様の定員32名の新車両を導入する予定としておりますし、本年4月1日からは、医大バス車両を除き、岩手県交通が導入している地域連携ICカードを引き続き利用できるようその対応

運賃箱を設置する予定としております。

次に、運行ダイヤにつきましては、運行事業者である東和町総合サービス公社においてもドライバーと車両に余裕が無いため、ドライバー1名、車両1台で運行可能なダイヤを設定しましたことから、平日は現在の17便から12便に減便し、土日につきましては、現在と同様の8便となります。具体的なダイヤにつきましては、6ページのバス時刻表案をご覧くださいと存じますが、観光客の利用が多いことから、東北新幹線との乗り継ぎ時間を考慮したダイヤとしたところであります。

次に運賃となりますが、土沢線のルートのうち矢沢地域の蒼前林から花巻駅～イトーヨーカドーの区間は、岩手県交通が運行している高木団地線と重複しており、岩手県交通からその区間の運賃は同様にして欲しいとの要望がございましたことから、岩手県交通の運賃表を基本とし、料金は初乗りの170円から700円程度としたところでございます。

次にその他といたしまして、定期券販売につきましては、現在、購入者は2名程度と少ない状況と伺っておりますが、引き続き、定期券を購入できるよう、販売場所を東和町総合サービス公社と岩手県交通の花巻駅前バス案内所の2か所で販売する方向で準備を進めているところであります。

事業費につきましては、運賃収入を除き年間約19,500千円、補助金につきましては、国庫補助対象路線から外れますことから、県の地域バス交通等支援事業補助金のうち、代替交通を対象とした人口減少対策路線確保事業を活用することとし、補助金額を3,000千円と見込んでいます。

最後に、「今後のスケジュール」について、ご説明いたします。

2月2日に花巻市地域公共交通会議を開催する予定としておりますが、地域公共交通会議では、本日も説明した内容を協議することとしており、協議が調った場合には、2月中に東北運輸局へ認可申請を行いたいと考えております。

その後、3月中旬には、新規のバス停留所を設置し、合わせてバス停留所や岩手県交通のバス車両内へ新しいコミュニティバスの運行内容を掲示するほか、ホームページや広報等でも周知を図る予定としており、予定どおり4月1日から運行できるよう準備を進めてまいります。

以上で説明を終わります。

(岩間総合政策部長)

説明が終わりました。内容について質問等ございましたら挙手のうえ、発言をお願いいたします。

櫻井議員。

(櫻井議員)

今後も廃線が続くと思われ、廃線となった場合は市が代替交通を運行する施策は理解できますが、行政が代替交通を行うからと、安易に廃線されては困ると考えております。今後の見通しとして市はどう考えているか考えをお伺いします。

(寺林都市政策課長補佐)

お答えいたします。

岩手県交通(株)に対し、廃線等の情報はなるべく早い段階で提供いただくよう情報交換している状況です。路線維持のためには、利用いただくことが必要と考えており、今後も利用促進を図っていきたくと考えております。また、新聞紙面にも掲載されておりましたが、県ではバス・タクシーの運転士確保の施策を検討しているとのことであり、市としても、現在の運転士不足の状況を踏まえ、何らかの支援策を検討していく必要があると考えております。

(櫻井議員)

花巻市では、運送事業者として東和町総合サービス公社があるため、スムーズに代替交通の運行が行えるものと考えているが、運転士の状況等、サービス公社の状況等をどう捉えているかお伺いします。

(寺林都市政策課長補佐)

お答えいたします。

東和町総合サービス公社でも、岩手県交通同様にドライバー不足であると認識しております。公社でも運転士確保のため動いており、本年4月以降で採用済の方を含め3名程度運転士を確保する見込みであるとのことですが、2種免許を持っていない方もいるため、すぐに路線バスを運転することは難しいと伺っております。

運転士不足は、今後スクールバス運行にも関係してくるものと考えられるため、将来的にはスクールバスを含め運行の効率化を検討する必要があると考えております。

(岩間総合政策部長)

そのほかに質問等ございましたら挙手のうえ、発言をお願いいたします。

照井議員。

(照井議員)

代替交通は、国庫補助路線の対象とならないのかお伺いします。

(寺林都市政策課長補佐)

お答えいたします。

国の補助が受けられないか東北運輸局岩手運輸支局に確認いたしましたが、今回の代替交通の運行内容では、該当とならないとのことでした。そのため、岩手県と協議を行い、県では県内で廃線が続いている状況から、市が代替交通としてコミュニティバスを運行する場合の補助制度を設けておりますことから、その補助金を活用するものでございます。

(照井議員)

公共交通は、地域の根幹を担うものであり、自治体のみで取組みを行うには限界があると感じております。国がある程度の責任を負う必要があると考えており、国に対して要望をしていくべきと考えているが、市ではどう考えているかお伺いします。

(寺林都市政策課長補佐)

お答えいたします。

これまでも国に対し、コミュニティバスの運行や予約乗合交通の運行に対する補助制度の拡充については、県を通じた要望や政党要望などで行っており、引き続き要望を行っていきたいと考えております。

(岩間総合政策部長)

そのほかに質問等ございましたら挙手のうえ、発言をお願いいたします。

佐々木議員。

(佐々木議員)

減便になることで、市民は不安を感じていると思います。定期券を購入している方は2名とのことですが、どういう方が購入しているか市では把握しているかお伺いします。

(寺林都市政策課長補佐)

お答えいたします。

詳細の資料が手元に無いため、正確な回答は申し上げられませんが、矢沢地域に勤務の方が購入していると伺っており、通勤利用の方の購入と認識しております。

(岩間総合政策部長)

そのほかに質問等ございましたら挙手のうえ、発言をお願いいたします。

似内議員。

(似内議員)

ダイヤ設定について、新幹線との接続を考慮したとのことであり、午後の便の接続は良いと感じております。土沢線は生活利用の他、観光利用の側面があると思うが観光利用をどう増やしてくか、現時点で考えている対策がありましたらお伺いします。

(寺林都市政策課長補佐)

お答えいたします。

土沢線では、沿線観光施設の入館料を無料とする利用優待券を配布し利用促進を図っており、引き続き実施していきたいと考えております。また、今後の利用状況によって運行ダイヤの見直すなどによりまして、利用しやすい環境を整えていきたいと考えております。

(似内議員)

個人での旅行が増えてきていると伺っておりますが、岩手に来た方が花巻に観光に来ない理由として、新花巻駅からの交通の便が悪いという話も伺っておりますので、観光サイドと連携しながら既存交通手段を活用し対応していただきたいと思っております。

(岩間総合政策部長)

そのほかに質問等ございましたら挙手のうえ、発言をお願いいたします。
内館議員。

(内館議員)

代替交通の運行のみならず、どうやったら利用が増えるかという事を同時に考えなければならぬと考えております。例えば、高校生などにターゲットを絞って、少しでも利用いただくために、定期券の購入補助を行うなど付随した施策を合わせてやっていかなければならないのではないかと考えておりますが、その辺の考え方を伺います。

(佐々木 都市政策・都市機能整備担当部長)

お答えいたします。

利用者を増やす取り組みは必要と考えておりますが、現時点では具体的な案は持ち合わせていない状況でございます。ただ、土沢線は東和地域内のルートの一部見直ししており、東和病院や土沢駅、東和温泉に行きやすくなっており、今までになかったルートを新設することで、新たな利用が掘り起こせばいいと考えております。

例えば、矢沢地域の方が土沢線に乗れば、東和温泉まで乗り継ぐことが無く行けるため、そのような利用で利用者の増加を期待しながら、利用促進も検討していきたいと考えております。

(岩間総合政策部長)

そのほかに質問等ございましたら挙手のうえ、発言をお願いいたします。
無いようですので、これをもちまして、議員説明会を閉会いたします。